

2024年度募集「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」 助成団体選考結果のご報告

概要

募集対象	重い病気により長期入院や長期療養をしている子どもの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動。
募集期間	2023年6月26日～2023年8月31日
応募数	36件
採択事業数	7件
助成金総額	計 9,894,381円
活動期間	2024年4月1日～2025年3月31日
助成選考委員会	本テーマに関して専門的知見を持つ5名の助成選考委員（当財団理事1名と外部有識者4名）で組織する助成選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

選考委員長より

本助成は、重い病気により困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学びを支援する事業を対象としたもので、今回で9回目の実施となります。助成選考委員会にて厳正に審査を行い、今年度は7件を採択しました。助成金総額は9,894,381円です。

今年度は、はじめて採択された団体が多くを占めました。また、これまでになかった新しい事業も含まれており、病気とともにある子どものための学び支援活動に広がりが見えました。

今回の審査でも例年通り、以下の観点を重視しました。

- モデル性:他の団体のモデルとなりうる効果的なプログラムやコンテンツ、ツール、ノウハウ等があるか。
- 地域との連携:病院や学校などとの連携により、活動の実効性が高いか。
- 継続性:助成終了後の事業継続の見通しがあるか。
- (2023年度助成団体について)2023年度の活動からの発展性があるか。

事業の目的と展開が明確で、事業の実施と発信により幅広い方々への波及効果が見込まれる団体を助成対象としました。計画が経験に基づいていて具体性や実行可能性があると考えられる団体については、試行的な取り組みを奨励するために、採択をしました。各団体で評価された点は、後の一覧にて述べています。

今回採択に至らなかった申請については、概ね以下のような傾向が見られました。

- 本助成の主旨・支援対象と合致しなかった。
- 実態の把握不足、課題の捉え方が一般的など、解決すべき課題の焦点が絞り切れていなかった。
- 解決したい課題と解決方法(実行項目、費用、スケジュール)の一貫性が読み取れなかった。
- 事業内容にモデル性が認められなかった。

採択された団体の皆様には、本テーマにおいて先駆的な活動を実践している団体として、よきモデルとなっただけを期待しています。また、当財団では、助成団体をサポートするだけでなく、本テーマがいっそう社会的に認知され、関心が広がることに寄与する活動や、団体同士の情報共有・学びあい・連携に資する取り組みを、積極的に進めていきたいと考えています。

2023年12月
公益財団法人ベネッセこども基金
理事・助成選考委員長
耳塚寛明

助成団体及び事業内容

※団体名 50音順

	団体名	事業名	助成額(円)	所在地	選考にあたっての 評価点
1	一般社団法人 かないと	医療的ケア児のための公民館的情報活動サポートセンターの創設	950,000	福岡県	医療的ケア児と家族のための環境整備やケア児自身が実施する活動を、唐津市と共に育てていく意義を感じました。この取り組みがモデルとなり、他地域・他団体にとっても有益な事例となることを期待します。
2	特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち	アーティストによるワークショップを通じた病児の創造的体験の場づくり	2,000,000	東京都	計画に具体性があり、実現可能性が高いと感じられました。定期的なワークショップの開催や動画配信などを通じて、多くの受益者にサービスが届くよう期待しています。
3	一般社団法人 Child Play Labo	入院中の小学生を対象にした、ライフアドベンチャー教育のモデルづくりと検証事業	2,010,000	東京都	学生による活動であり、入院中の子どもの意見を基に教育プログラムを開発する点を評価しました。このプログラムで、ワクワクが生きるエネルギーになる子どもが増え、試行がモデル創出につながることを期待します。
4	一般社団法人 Try Angle	医療的ケア児の多様な学びや経験を支える外出・旅行支援ネットワークづくり	1,000,000	石川県	医療的ケア児の豊かな学びや経験につながる旅行の機会を増やすために、交通・観光事業者を含む協力者間の関係づくりや、情報集約と発信の可能性を評価しました。エリアを絞って取り組むことで、モデル性のある事業となることを期待します。
5	一般社団法人 北海道子どもホスピスプロジェクト	LTCの子どもと家族の状況を学びで改善する仕組みづくり～子どもたちへ繋ぐ自然、文化、そしていのち～	980,000	北海道	LTC（命を脅かす病気）を抱える子どもの教育支援は緊急度が高いことに加え、実現可能性の高さや、学びの質を意識して活動のねらいを考えている点を評価しました。助成終了後の活動展開についても検討が進むことを期待します。
6	特定非営利活動法人 ポプルワークス	病院や自宅等で療養生活を送る子どもたちの内面を豊かに育む、映像制作ワークショップ実施事業	1,500,000	東京都	病院や自宅で療養生活を送る子ども達向けの映像制作ワークショップで、完成した映像が生む波及的効果も可能性を感じました。ワークショップが、子どもの自己理解・表現力など、社会で生きていく力につながる体験機会となることを期待しています。
7	認定特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	いのちを守る 病気のある子どもたちの防災キャンプ	1,454,381	愛媛	病気とともにある子どもたちが、災害時に確保しておくべき事項を理解し、避難生活を体験することは有効だと感じました。特に本事業では、子どもの主体性を尊重したプログラムである点を評価しました。

【団体名】

一般社団法人 かないと

【URL】

<http://ozzo.jp/karatsu/>

【申請事業名】

医療的ケア児のための公民館的情報活動サポートセンターの創設

【メッセージ】

①団体の紹介

私たちの法人は、様々な生きづらさを抱えるこどもさんの地域活動のサポートを行っています。フリースペース的学習支援やパルクール教室をはじめとした運動教室、医療的ケアが必要な子どもさんのための事業など、「ひとりじゃないよ。過去と人はかえられなけど、頑張る人は応援できる」を合言葉に様々な活動を展開しています。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

医療的ケアが必要なこどもさんやその家族が

1. 情報とつながる
2. 地域とつながる
3. 仲間とつながる

以上3つのつながるをサポートするための活動拠点と、医療的ケア児専用の災害時避難所を「医療的ケア児のための公民館的情報サポート活動センター」として創設します。

このサポートセンターで「100の質問プロジェクト」と名付けた交流型の情報発信、OZ YORU PANというパン屋さんの運営に医療的ケア児が視線入力やスイッチで参画するプロジェクトを展開していきます。

医療的ケアが必要なこどもさんの地域参加や、人生における学びや、意欲、成功体験を育む企画や展示を行いながら養育者も集える、地域活動拠点を創設していく計画です。

またこれらの取り組みを通して、地域の医療的ケア児の状況や実数の把握など、災害時医療的ケア児の災害時避難所運営に係る基盤も同時に整備していきます。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

医療的ケア児自身が、活動するための拠点づくりと災害時の避難場所づくりを同時に仕掛けていくことが今回のポイントです。行政と連携しながら地域に医療的ケアが必要な方々の地域生活の「安心・安全・交流」が広がっていくように取り組んでいきます。

【団体名】

特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち

【URL】

<https://www.children-art.net/>

【申請事業名】

アーティストによるワークショップを通じた病児の創造的体験の場づくり

【メッセージ】**①団体の紹介**

NPO法人 芸術家と子どもたちは、1999年に発足、2001年からNPO法人として活動を行っています。私たちが取り組んでいるのは、現代アーティストと、いまの子どもたちが会う「場づくり」です。多様な価値観・考え方・身体感覚を持つ人々が共生する社会を創出するため、子どもたちとアーティストの出会いを通じて、創造的な学び・遊びの機会をつくりだす活動を行っています。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

埼玉県立小児医療センターを利用している入院中や外来の子どもたちを対象に、プロの現代アーティストが、対面によるワークショップ、オンラインワークショップ、動画配信を実施。その子の状態に合わせて、参加可能な方法で、プロのアーティストによる表現に触れ、身体表現、音楽、美術等の表現ワークショップで楽しく自己表現する機会を提供します。入院や通院のために楽しい体験の機会が減少してメンタルヘルスが悪化している子どもたちの心のケアを行いながら、子どもの表現力、想像力、創造力等を刺激し、潜在的な可能性を引き出すとともに、自己肯定感や前向きに生きる力、主体的に生きる力を育成し、小児患者の成長を促します。また、次年度以降の展開を目指し、新規の病院等へ働きかけを行ったり、ショートムービーの製作による活動紹介の発信に取り組みます。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

実施にあたっては、病院のボランティア担当者、医師や看護師の他、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）や病棟保育士など、専門職や様々な立場で子どもたちのケアに携わる方に協力してもらい、アーティスト、病院、子どもたち三者のコラボレーションによる、アートを活用した心のケアの実践に挑戦したいです。痛みを伴う様々な検査や、日常生活から切り離されてしまう入院生活など、マイナスなイメージを持たれがちな病院ですが、「この病院にはこんな楽しいことがある」というイメージを持てるようになると、治療に向かう子どもたちの気持ちや、院内で働く看護師等のモチベーションの向上にもつながる効果が期待できます。アートとの出会いを通じて、子どもの潜在的な力が引き出され、病児やその家族が自分の可能性に気づいたり、意欲を持ったりすることで、重い病気を抱える子どもたちの成長の可能性をもっと豊かに広げられる、そんな活動にしたいです。

【団体名】

一般社団法人 Child Play Lab

【URL】

<https://lit.link/childplaylab>

【申請事業名】

入院中の小学生を対象にした、ライフアドベンチャー教育のモデルづくりと検証事業

【メッセージ】**①団体の紹介**

心から湧き出てくる願いや目標が生きる力になること、すなわちワクワクが生きるエネルギーになることもたちを増やすための一歩として、病児向けオンデマンド体験プログラム「Poco！」を開発し、全国の入院中のこどもたちに提供していきます。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

入院中のこどもにとって、新しい人やものとの出会い、自らの意思で選択しやりぬく体験、誰かのためになるつながる、これら3つの時間が不十分だと考えます。そこで、余暇を埋めるための遊びではなく、病気という負の体験を乗り越えていくレジリエンス力、そして自らの人生の体験に自分なりの物語を紡ぎながら新たな道を切り開いていく、真のアントレプレナー精神、これらを組み合わせた力を養うプログラムを提供します。入院中のこどもたちが好きなことや熱中できることを発見し闘病生活により前向きな意味を見出すことのできる未来を目指しています。

実行項目は、2つあります。1つ目は、小学生の頃に入院経験がある人を対象にした、入院中の過ごし方に関する実態調査を行い、こどもたちのニーズや希望を探り、プログラムのコアを磨くことです。2つ目は、入院という時間がちょっと特別になる、病児向けオンデマンド体験プログラムの実施です。「ベッドの上から冒険に出よう」を合言葉に、“好き”や“ワクワク”を見つける体験プログラムが詰まった定期便BOX「Poco!」を、闘病中のこどもに無償で提供します。新しい人やものとの出会いを通じて、新たな自分に出会い、入院という時間を、ちょっと特別になることを目指します。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

これまで2年半学生団体として活動を継続して参りましたが、新たに名前を変え法人としてのスタートを切りました。新しい人やものとの出会いを通じて、入院中のこどもが新たな自分に出会うことができる、中長期的な楽しみを持ちながら治療生活を送ることができる社会を目指すべく、医療に限らずあらゆるステークホルダーと共に、こどもたちの未来を作って参ります。

どうぞ、応援のほどよろしくお願いいたします。

【団体名】

一般社団法人 Try Angle

【URL】

<https://try-angle.org/>

【申請事業名】

医療的ケア児の多様な学びや経験を支える外出・旅行支援ネットワークづくり

【メッセージ】

①団体の紹介

Try Angle（トライアングル）は医療的ケアのあるお子さんの旅行や外出を支援している団体です。

ビジョンに「医療的ケア児が安心して旅行ができる環境の整備を通じ、病気や障害の有無にかかわらず、誰もが旅行を楽しめる社会の実現」を掲げ、医療的ケア児が旅行する際に検討すべきポイントをまとめた『医療的ケア児の旅行ガイドライン』を発行したり、旅行の相談に乗るなどに取り組んでいます。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

医療的ケア児は過去十数年で約2倍と急激に増加したため、社会的な支援制度（制度・設備）が十分に整っておらず、外出・旅行を通じて家では経験できない豊かな学びや経験、出会いの機会が極めて少ない状況にあります。

医療的ケア児が外出・旅行をし、家以外での多様な学びや経験をするためには、医療・福祉事業者や支援団体、観光事業者の協力が不可欠ですが、経験や情報不足から生まれる不安や、自治体を越えた連携のしづらさがあり、外出・旅行を支援する環境づくりが必要です。

今回の事業では、医療的ケア児とその家族が家では経験できない豊かな学びや経験、出会いをする機会を増やすために、医療的ケア児の外出・旅行にまつわる関係者・支援者（医療・福祉・介護事業者、支援団体、交通・宿泊等観光事業者）を全国的にネットワーク化し、お互いが情報交換、交流、学び合える、「交流会の運営」と、「ポータルサイトの構築」を行います。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

全国各地の医療的ケア児の生活を支える医療・福祉事業者や支援団体、観光事業者の方々と繋がり、情報交換や交流をする中で、医療的ケア児とその家族が外出・旅行に前向きになれたり、実際に知らない場所への外出・旅行に行けるようにしていきたいと考えています。本事業を通して、「全国どこへでも行ける」「その土地ごとに外出・旅行をサポートしてくれる人がいる」という環境づくりを進めていきます。

【団体名】

一般社団法人 北海道こどもホスピスプロジェクト

【URL】

<https://www.h-chp.org/>

【申請事業名】

LTCの子どもと家族の状況を学びで改善する仕組みづくり
～子どもたちへ繋ぐ自然、文化、そしていのち～

【メッセージ】

① 団体の紹介

2015年より任意団体として活動を開始し、2017年より一般社団法人として北海道にこどもホスピスを設立することを目指して活動をしています。現在は仮施設「くまさんのおうち」を運営し、命を脅かす病気のこどもが入院中、退院後であっても“楽しみながらまなぶ”“おなじ状況の子どもたち交流をはかれる”“こどもとしての成長発達が保証される”などが可能となる場として北海道大学病院との連携をはかりながら活動を進めています。また、2023年より札幌市の公約にこどもホスピス支援を加えて頂いたことから今後行政との協働がより期待されます。

② 今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

今回は2つの事業を実施させていただきます。まず「こども達の「やってみたい！」を大切にする野外活動教育の取り組み」です。小児がんなどの重い病気や障がいのある子どもとご家族は、外出の機会や他者とのふれあいが極端に少ないです。また、北海道という地域に住んでいながらも、疾患等のために家族のみでは野外での活動が難しいと考えている家族が多いこともアンケート等で明らかになっています。そのため、看護師、専門ガイド等がいる安心な自然環境のもとで、思いっきり遊んだり、のんびり外で過ごしたりすることで、リフレッシュや明日を生きる力につなげていきます。また、カヌーやキャンプという活動を通して、自分たちにもできるという体験を積み重ねていくことで自己肯定感を高め、仲間や地域社会とのつながりを感じることで、一人じゃない、自分たち以外にもたくさんの人たちが理解し支えてくれていることに気が付く機会にします。

2つめは「こども達の様々な想いに寄り添うクラシック音楽を通しての情操教育の取り組み」です。北海道こどもホスピスプロジェクトの応援アンバサダーに元札幌交響楽団コンサートマスターの大平まゆみ氏がいます。彼女はALSを発症後は一線からは退いたものの、現在も引き続きこどもホスピス活動を応援してくれています。彼女の口癖が「いつも心に音楽を」であり、我々もこの言葉を大切に今まで活動を続けてきています。何らかの原因で演奏途中で退出する、痰の吸引の音がする、人工呼吸器の音がする、など様々なことが原因で本物の生の音楽に触れる機会を躊躇してしまう家族が多いことが今までの活動のアンケート等でも浮かび上がってきています。そこで、誰もが気兼ねなく参加できるユニバーサルコンサートを道内各地で実施し、本物の文化に触れ合う機会を創出します。

③ 事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

今回特にポイントと思うことは、自然環境が豊かな地域に暮らす子どもと家族が多いが、治療や療養を中心とした生活を余儀なくされていることが多く、病気や障がいを理由に野外活動は難しいと諦めてしまうケースが多いことです。また、治療が終わるとそれぞれの生活地域へと戻るため、同じような経験をしている仲間と出会う機会も少なく、さらに、COVID-19感染拡大に伴い、外出の機会は極端に減ってしまい、社会から孤立してしまっているケースも多いです。

北海道の地域特性を踏まえ、活動を展開していく中で、豊かな自然環境を活かし、日々成長発達を遂げている子どもたちに、様々なことにチャレンジできる外遊びの場を継続的に提供していきたいと考えています。

【団体名】

特定非営利活動法人 ポプルワークス

【URL】

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/013014401>

【申請事業名】

病院や自宅等で療養生活を送る子どもたちの内面を豊かに育む、映像制作ワークショップ実施事業

【メッセージ】

①団体の紹介

放送業界出身の専門職と教育・福祉の専門家が集い、活動しています。発達障害や不登校をはじめとした多様な背景の子ども・若者当事者たちが、社会の一員として大切にされ自分らしく生きられる、温かな社会の実現を目指します。

主な活動の軸として、

- (1) 子ども・若者を対象とした映像制作ワークショップ
- (2) 保護者・教職員・支援従事者を対象とした、相談会・研修・講座
- (3) 子ども・若者当事者への理解促進を目的とした映像制作やイベントの企画があります。

私たちが放送現場で経験してきた“映像制作プロセス（企画・取材・撮影・編集・音楽…etc.）”が、子ども・若者たちの「自己理解力」「表現力」「コミュニケーション力」といった重要な力を、楽しく育む機会になりえると気づいたことが、ワークショップを始めたきっかけでした。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

重い病気で療養中の子どもたちを対象に、映像制作ワークショップを実施したいと考えています。代表理事の西澤は、昨年度までテレビ局のディレクターとして、経済的に苦しい家庭の子どもや、重い病気の子ども、障害のある子どもたちの現場等を取材する中で、ある課題を感じてきました。それは、命に関わる医療面、食事のケア、学習のフォローがもちろん最優先である日々の中で、それ以外の、自分を表現することや、仲間ともに何かを楽しむこと、人に発信することといった諸活動には、どうしても十分な時間や要員が割かれづらいということです。現場で葛藤する方々の姿も多く見てきました。

今回、映像制作ワークショップを通して、療養中の子どもたちに、自分の中に眠る感性や思いに気づき、映像を通して表現し、人びとに伝えて響き合う機会を、届けることができたら…と思っています。たとえば療養中のベッドの上でも、頭の中のすてきな空想を「企画」にすることができます。オンラインを駆使すれば、部屋にいながら「取材」にだって行けます。工夫すれば「撮影」も実現できます。子どもたちの願いをもとに、多様な映像表現をサポートします。

また、上映会等の発表過程を設け、地域の方々、特に同世代の子どもとの関わりを作り出していきたいと考えています。子どもたちの内面を伝える機会を作ること、社会からの理解を深め、応援の機運を醸成していくことを目指します。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

現場の方々との連携を深めながら、子どもたちの体調や安全面に最大限配慮し、進めていきたいと考えています。これまでのワークショップから、子どもたちに負担の少ない活動を抽出しブラッシュアップして提供します。

【団体名】

認定特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ

【URL】

<http://www.npo-lafamille.com/hoken/>

【申請事業名】

いのちを守る 病気のある子どもたちの防災キャンプ

【メッセージ】

① 団体の紹介

ラ・ファミリエ は、病気のある子どもとご家族を支援する団体です。活動内容は大きく2つあり、①病気のある子どもとご家族が入院中・外泊時・外来通院時等に利用する滞在施設『ファミリーハウスあい』の運営、②『地域子どものくらし保健室』にて、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業(愛媛県・松山市委託)をはじめ様々な相談の窓口として、愛媛県内の病気のある子どもとご家族対象の相談支援、就職支援、学習支援、相互交流支援、きょうだい支援等を実施しています。

② 今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

地震や津波、豪雨などの災害は予測がつかないため、常日頃から「正しくおそれ、日頃から備える」ことが重要です。病気のある子どもたちは服薬や医療的ケアなど、自分の命を守るために確保しておくべき事項がありますが、自分の身体や必要なケアの管理を想定した避難生活のロールプレイの機会はほとんどないと想定されます。

よって、病気のある子どもたちが災害時にも自分の命を守るための知識を獲得し、必要な行動を理解するための具体的なロールプレイの機会が必要であると考えました。また、病気のある子どもたち同士が災害時について考える機会を設けることで、「仲間の存在」を実感し、協力して課題を解決する力を養うことも必要だと考えます。

2024年度は以下の2点について、医師・看護師・薬剤師などの医療スタッフ、災害派遣医療チーム（DMAT）、当事者団体、行政、消防など地域と連携しながら取り組みます。

1. 病気のある子どもたちの避難生活を想定した1泊2日の防災キャンプ
2. 病気のある子どもたちの日頃の備えや災害時の避難行動に関する成果報告会と福祉避難所に関する調査

③ 事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

「災害時には実際はどうしたらいいのだろう」と不安を感じていたり、日々のことに手一杯で災害時のことまで考えが及ばなかったりするお子さんやご家族は少なくありません。今回の活動を通して、日頃の備えや災害時の行動について具体的に考える機会をもつことで、子どもたち自身が自分ごととして学び、自立して行動できる素養を身に付けられたらと考えています。また、愛媛県内を含む全国の方々に、その必要性と実現可能性が広まることで、病気のある子どもたちの防災教育に関する活動普及の一助となればと考えています。